

第41回 日本クラブユースサッカー(U-15)選手権 第32回 新潟県予選大会 競技規定

1. 競技方法 (1) 予選リーグ

※下記2025年度新潟県CY新人戦の順位とは、2026高円宮杯北信越リーグ参戦のチームを除いた順位とする。

①4チーム×7グループ、3チーム×1グループにそれぞれ振り分ける。

②各グループの1位・2位チームの16チームを決勝トーナメントに進出させる。

③各グループの3位以下のチームは、順位決定戦を行う。

④勝ち点が同一の場合、(i)対戦成績(ii)得失点差(iii)総得点(iv)抽選の順で順位を決定する。

⑤試合時間は60分とし、ハーフタイムは7分間(前半終了のホイッスルから後半開始のホイッスルとする)。

(2) 決勝トーナメント

①16チームによるトーナメント方式とする。

②試合時間は70分とし、ハーフタイムは10分間(前半終了のホイッスルから後半開始のホイッスルとする)。なお競技時間内に勝敗の決まらない場合は、後半終了5分後に前後半10分ずつの延長戦を行う。それでも決しない場合は3分間のインターバル後、ペナルティキック方式により勝敗を決定する。PK戦において行う人数は選手数の少ないチームに合わせる。

(3) 敗者戦

①8チームによるトーナメント方式とする。

②試合時間は60分とし、ハーフタイムは7分間(前半終了のホイッスルから後半開始のホイッスルとする)。なお競技時間内に勝敗の決まらない場合は、後半終了3分後にペナルティキック方式により勝敗を決定する。PK戦において行う人数は選手数の少ないチームに合わせる。

2. 警告・退場

大会期間中、警告の累積が2枚になった選手は次の1試合に出場出来ない。また、退場を命じられた選手等は次の1試合に出場出来ない。

退場処分を受けた選手、役員等(警告累積による出場停止は除く)のその後の措置は大会実施委員会を通じ新潟県サッカー協会規律委員会の承認を受けた処分を文章にて通知する。なお、この大会期間中に消化出来ない場合に限り直近の公式戦での消化となる。この場合、必ず選手及びチーム監督からの申告による直近の公式戦での消化を行うこと。故意の有る無しに関わらずこれを怠った場合は重い処分が下される。

(1) 退場を命じられた選手、役員等は、会場役員の指示に従い所定の場所に移動すること。

(2) 退場を命じられた選手、役員等は、大会本部が必要と判断した場合に各会場の指定の場所で事情聴取を行います。試合終了後、会場大会本部にて待機して下さい。審判報告書の提出を持って事情聴取を開始します。

(3) 予選リーグにおける警告は、決勝トーナメント、順位戦に持ち越さないものとする。ただし、出場停止処分を受けこれを消化出来ない場合は、決勝トーナメントまたは順位戦以降で消化することとなる。

(4) 本大会において、北信越クラブユースサッカー(U-15)選手権大会に進出するチームの選手、役員等が出場停止処分を消化出来ない場合は、北信越クラブユースサッカー(U-15)選手権大会において消化することとなる。

なお、北信越クラブユースサッカー(U-15)フェスティバルに出場するチームの選手、役員等が出場停止処分を消化出来ない場合は、直近の公式戦で消化することになるので、十分注意をする。

(5) 本大会終了時、出場停止処分が残存する場合、上位大会に進出出来ないチームの選手等は必ず、直近の公式戦においてこれを消化して下さい。その場合、チーム監督及び当該選手から大会主催者に申告をして下さい。

(6) 「累積警告」による出場停止処分は、本大会において消化するものとし、本大会の終了を持って出場停止処分は消滅する。

(7) その他詳細は、(公財)日本サッカー協会「懲罰規定」に則る。

3. メンバー表

(1) 予選リーグ、トーナメント1回戦は試合開始30分前までに当該ピッチの大会本部へ2部提出のこと。このとき、先発選手、交代選手、ベンチ入り役員、ユニフォームに印を付け、選手については25名以内、役員については5名までのベンチ入りとする。

(2) 決勝トーナメント準々決勝以降は70分前ミーティング時に4部提出とする。

4. その他

(1) 参加資格等の違反、不都合な行為等があった場合の措置については大会実施委員会で裁定する。

- (2) 本要項及び注意事項に記載の無い事項については(公財)日本サッカー協会発行「サッカー競技規則2025/2026」による。
- (3) チームベンチは会場本部席からグラウンドに向かって左側ベンチをプログラム「競技日程」の上段または左側に表記されているチームとし、対戦チームを右側とする。
- (4) 試合中の選手や観客を含め会場による緊急事態(救急搬送等)の対応は本部役員で行うが、それ以降の処置は各チームで責任を持って対応を行って下さい。

競技上の注意事項

1. ユニフォーム
 - (1) 予選リーグから決勝トーナメント1回戦で使用するユニフォームについては、各会場第一試合開始60分前に行う代表者会議終了後、当日の試合分についてこれを決定すること。このとき、決定が困難な場合は当該審判員にて決定する。また、ユニフォームの正・副は必ず準備すること。
 - (2) 決勝トーナメント準々決勝以降については、70分前ミーティングにおいてこれを決定する。このとき、必ず正・副のユニフォーム(GKも含む)を持参のこと。また、ユニフォームのシャツ、パンツ、ストッキングの色が類似している場合は、それぞれについて判別しやすい組合せを審判員により決定すること。
 - (3) 通常審判員が着用する審判着(黒色等)に類似しているユニフォームは認めない。
 - (4) ユニフォームの前面及び背面には大会エントリー時に登録された選手固有の番号を付けること(GKも含む)。また、パンツの番号については付けることが望ましい。なお、アンダーショーツについては、パンツと同色のものを使用すること。アンダーウェアについてはシャツの袖の主たる色と同色にすること。**※カットソックスを着用する場合は、同色とする。**
 - (5) 登録表に入力された選手番号のユニフォームが試合開始時にない場合は違う番号での試合出場は認めない。この場合、ユニフォームが準備出来るまでその選手を欠いて試合を進めるか、交代枠を使い当日提出済みのメンバー表に従って控え選手を出場させるかの選択となる。
 - (6) ユニフォーム規定に原則従うこととする。背番号の張り番については、前面及び背面とも四辺をしっかりと縫い付け試合中に取れることのないようにすること。また番号がはっきりと読み取れるものであること。
 - (7) その他詳細は、(公財)日本サッカー協会「ユニフォーム規定」に則る。
2. 選手交代
 - (1) 試合当日提出のメンバー表の交代選手最大14名の中から7名の交代を認める。
 - (2)
 - ①**選手の交代は交代用紙(各チームにて準備)を持って第四審判員及び本部役員において所定の手続きを経て交代を行う。**
 - ②**交代回数は1試合を通じて各チーム最大3回とする。1回に交代できる選手の人数は交代可能人数までとする。なお、前半、ハーフタイム及び延長戦に入る前のインターバル時の交代は回数に含めない。**
 - ③脳震盪による交代は上記とは別に認めるものとする。なお、詳細な運用に関しては以下の規定に基づき対応する。
 - ア:「脳震盪による交代」を適用するかどうかの判断は当該チームのスタッフが行うものとする。
 - イ:脳震盪による交代の場合、一度通常交代によって退いていた選手の再出場も可能。
 - ・上記は交代要員の選手が残っているかにはとらわれない。
 - ex) 2名のみ登録のGKを通常交代させた後に脳震盪による交代が必要になれば最初のGKに戻すことが可能
 - ウ:交代回数3回を使い終わっていた後でも脳震盪による交代は可能である。
 - ※ただし、脳震盪による交代は1試合で1度のみ
 - エ:交代回数3回に至っていない場合、脳震盪による交代は回数にカウントしない。
 - ※ただし、脳震盪による交代と同時に他の選手も後退させた場合は交代回数としてカウントし、別途に交代回数が追加されることはない。
 - オ:「エ」に関しては、対戦相手チームに与えられる「追加の交代要員」に関しても同様に適用される。
 - カ:交代手続きについて
 - ・今年度使用の「選手交代カード」を使用する。
 - ・「脳震盪による交代」の欄に「○」を記入して交代手続きを行う。
 - ・「脳震盪」による交代が行われた場合、第四審は相手チームの監督に、その旨を伝え、「追加の交代」が可能であることを伝える。
 - ・相手チームが「追加の交代」を使用する場合、「脳震盪による交代」の欄に「追加」と記入する。
 - ③**延長戦に入った場合は、交代回数を1回追加し、交代選手を1名追加できる。また、試合中に使わなかった交代選手および、後半戦残りの交代回数は延長戦に繰り越す。ただし、PK戦においては適用しない。**

- (3) 各試合のメンバー表提出後、試合開始前までの時間に怪我等の特別な理由により、その試合に登録された選手が出場出来ない場合と当該会場本部役員が判断した場合に限り、下記の通りメンバーの変更を認める。

①先発選手の場合、控え選手を先発選手に変更し、新たに控え選手を登録済みの選手30名の中から補充することが出来る。ただし、出場出来ない当該選手がベンチに留まりたい場合は、当該試合に出場しないことを条件にベンチにとどめることが出来るが、この場合は控え選手の補充は出来ない。

②控え選手の場合は、登録済み選手30名の中から控え選手として新たに補充することが出来る。この場合も怪我等で出場出来ない当該選手がベンチに留まりたい場合は、当該試合に出場しないことを条件にベンチにとどめることが出来るが、この場合は控え選手の補充は出来ない。

③選手の補充を行った場合、怪我等で出場出来ない当該選手はベンチ内へ入ることは出来ない。

④この選手の補充については、選手の交代にはあたらない。

⑤この措置は、本大会のみの適応とする。

競技運営上の注意

1. 代表者会議 予選リーグから決勝トーナメント1回戦までは、各会場第1試合開始60分前に当該出場チームの代表各1名によるミーティングを行う。
2. ミーティング 決勝トーナメント準々決勝からは、各会場指定の場所で70分前ミーティングを行う。
その他 (1) テクニカルエリア内においては、いかなる撮影(写真、ビデオ)も認められない。但し、試合前の集合撮影はその限りではない。
(2) 会場及び施設(宿泊施設等も含む)の破損等については当該チームで責任を持って対応すること。
(3) 大会要項に規定されていない事項については大会実施委員会において協議の上決定する。
(4) エントリー表などに錯誤があった場合には速やかに事務局まで連絡を行い指示に従うこと。
(5) 天候などによる対応については、別紙参照